



New Standards for Precision, Efficiency and Reliability
www.cn.ca
Canadian National Railway Company Japan Representative Office Tel: 03-6890-8281

日刊 CARGO

物流総合紙

Daily CARGO Transport & Logistics News

2012年(平成24年)
9月6日
木曜日
第10496号
月曜～金曜発行(祝日を除く)
購読料: 1ヵ月8,400円(税込)
(昭和44年9月30日 第三種郵便物認可)
http://www.daily-cargo.com/

発行所: 株式会社海事プレス社
本社: 東京都千代田区岩本町2-1-15 吉安神田ビル3階
TEL03-5835-4162(代表) FAX03-5835-4160
関西支局: 大阪府大阪市西区京町堀1-17-8 京ビル5階
TEL06-6441-9800 FAX06-6441-9801
横浜支局: 神奈川県横浜市中区太田町6-87 横浜フコク生命ビル8階
TEL045-681-7832 FAX045-681-7833
上海支局: 上海市長寧区雲山関路85号 東方国際大廈A棟1304室
TEL+86-21-6211-8891 FAX+86-21-6211-8892
http://www.kaiji-press.co.jp
©海事プレス社2012 禁断転載

平野ロジスティクス

「+2」営業運行開始

ULD5枚フル搭載

平野ロジスティクス(本社・神戸市、田中英治社長)は、96型パレット仕様のユニット・ロード・デバイス(ULD)を5枚搭載できるフルトレーラー車「+2」(プラス・ツー)の営業運行を開始した。30日午前中に関西国際空港の国際貨物地区で全日本空輸(ANA)やCKTSの上屋へのフィッティング調査を実施して、これをクリア。同日夜、ANAの輸出貨物(ULD5枚)をフル搭載して成田空港向けに保税転送した。

関西発成田向けに保税転送

従来のトラックはULD3枚積みだが、これよりも2枚多く搭載できるのが平野ロジスティクスの「+2」。品質やコスト、環境対応の観点からのメリ



「+2」の初めての営業運行が関西国際空港から成田空港向けのOLTで実施された

ットを同時に実現できることが特色だ。トラックとトレーラーの間でパレットを移動させることができ、またエアサスペンション車両であるた

め、振動に敏感な精密機械などの輸送にも対応可能だ。ULD5枚搭載が可能。開発・製作にあたっては、構想・設計に1年、製作に1年の計2年を費やした。実用新案を申請中。

既に7月には成田空港や羽田空港で上屋へのフィッティング調査、テスト運行を実施している。今回、初めて営業ベースでの運行を開始した。

30日午前中に関西で上屋へのフィッティング調査を実施。問題なくULDの塔降載を実施できることを確認した。同日夜には、ANAの輸出貨物ビルからULD5枚を搭載して出発。翌日午前中に成田空港のANAの上屋(第7貨物ビル)まで保税転送した。平野ロジスティクス関東支店の益子研一店長は「トラックとトレーラーの

接続部分のパレット移動もスムーズに実施できた。当初の事業構想どおりに営業運行に至ることができ、今後は+2を積極的に活用して物流効率化に貢献したい」としている。

来週中には中部国際空港でも上屋へのフィッティング調査を実施する予定。これをクリアすれば、成田、羽田、中部、関西の4国際拠点空港でフィッティング調査を完了することになる。

が前年実績を同月の輸出向別に見ると、36・7%減のC2が37・1%、TC3が29・1%。国向けが前年取り扱った削減。シンガポール、フィリピン、タイ、ベトナム、インド、中国向けが振るわず全地域7・9%減の

新日鉄・住金 物流子会社を統 来年4月「日鉄住金物流」

新日本製鉄と住友金属工業は5日、それぞれの100%子会社で物流・海運業の日鐵物流(高橋逸夫社長、資本金40億円、従業員数5012人)と住友金属物流(宮坂一郎社長、資本金15・1億円、従業員数1448人)が、来年4月1日をもって事業統合することと合意したと発表した。統合後の社名は「日鉄住金物流」で10月に発足する新日鉄住金の100%子会社となる。

両社は事業統合の目的について、「おのおのが有する物流に関する経営資源を統合再編することにより、事業効率の向上、事業基盤の強化を図り、早期にシナジー効果を発揮し、今までの以上に競争力のある物流サービスを提供する物流子会社となることを目指している」としている。統合後の具体的な内容は、両社が設置する統合再編準備委員会が検討する。

日鐵物流は地域子会社名古屋・広州を置いていた。この体制をこの鹿島重工業部も地域子会社の地域子会社として「日鉄住金物流」(所名)。なまの和歌山重工業部も地域子会社として「日鉄住金物流」(所名)と2013

この人に聞く

輸入での取り組み 内配送サービスを手がけている。海外展開の具体策は。長阪 双日本体でも消費財関連が強く、中でもわれわれはアパレル、食料品への取り組みを強化している。国内では倉庫、車両を物流支援サービスを提供する。双日は現在、インドネシア、ベトナム、インドで工



双日ロジスティクス社長 長阪 九万太氏

業団地を展開しているが、われわれは進出企業に対して、日本からの設備輸送や現地での原料供給、製品出荷など三國間を含めてトータルで物流サービスを提供している。また、先ごろ中国で工業団地を開発する顧客からの協力要請があり、同団地への日系企業の誘致や物流支援など、さまざまな形での関与を考えている。

双日本体の自動車本部が「オートランス」のブランドで海外自動車部品物流を手がけている。長阪 オートランスはモジュール対応など、より上流の工程から見た物流を手がける。自動車部品物流で

部門以来の経験があり、日本発のみならず、海外輸送や現地での輸送・機工事配まで一貫して請け負うことができる。双日の営業部隊が獲得した案件だけでなく、重工業メーカーの輸送を請け負うこともある。プラント関連は日本からの出荷はほとんどないが、今後は

双日ロジとしての海外ネットワークは。長阪 歴史の長い中国法人に加え、ベトナム法人が立ち上がった。その他エリアについては双日の海外店と一緒に取組む。双日ロジからはバンコク、デリー、ジャカルタ、デュッセルドルフ、サンパウロに

人材育成、喫緊の課題に

は従来から連携しており、顧客の海外進出などでは密接に情報交換している。地域によっては一緒にやることもあるだろう。プラント輸送も得意分野だ。長阪 世界的にインフラ開発プロジェクトが多く動いている。総合商社の運輸

日本メーカーの受注案件でも、中国・韓国などの第三国からの出荷がますます増加する。これら三國間輸送や鉄道などを組み合わせた内陸への複合輸送、現地パートナーとの密接な関係など、われわれの経験が生きていく。引き続き注力していく。

本語を話せるスタッフを置く。インの人員とシナ物流を。課題は。長阪 人材課題だ。特に進出が早く展開が重要